

平成 20 年 9 月 29 日

各 位

会 社 名 平 田 機 工 株 式 会 社
 代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 米 田 康 三
 (コード番号: 6 2 5 8)
 問 合 せ 先 取 締 役 常 務 執 行 役 員 小 橋 正 實
 管 理 本 部 長
 (電話 0 9 6 - 2 7 2 - 5 5 5 8)
 (URL <http://www.hirata.co.jp>)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成21年3月期第2四半期累計期間(平成20年4月1日～平成20年9月30日)及び平成21年3月期通期(平成20年4月1日～平成21年3月31日)の業績予想について、平成20年5月15日付当社「平成20年3月期 決算短信」及び平成20年8月11日付当社「平成21年3月期 第1四半期決算短信」にて公表いたしました業績予想を下記のとおり修正いたします。

記

1. 平成 21 年 3 月期連結業績予想の修正

(1) 第 2 四半期連結累計期間業績予想値の修正 (平成 20 年 4 月 1 日～平成 20 年 9 月 30 日)

(単位: 百万円)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	四 半 期 純 利 益	1 株 当 たり 四 半 期 純 利 益
前回発表予想 (A)	22,500	700	500	250	23 円 49 銭
今回発表予想 (B)	20,600	450	230	100	9 円 40 銭
増減額 (B - A)	△1,900	△250	△270	△150	——
増 減 率 (%)	△8.4	△35.7	△54.0	△60.0	——
(ご参考) 前期第 2 四半期実績 (平成 20 年 3 月期第 2 四半期)	20,806	1,663	1,576	648	60 円 34 銭

(2) 通期連結業績予想値の修正 (平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日)

(単位: 百万円)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	当 期 純 利 益	1 株 当 たり 当 期 純 利 益
前回発表予想 (A)	50,000	3,000	2,700	1,400	131 円 55 銭
今回発表予想 (B)	50,000	1,180	700	350	32 円 89 銭
増減額 (B - A)	0	△1,820	△2,000	△1,050	——
増 減 率 (%)	0	△60.7	△74.1	△75.0	——
(ご参考) 前期実績 (平成 20 年 3 月期)	47,237	3,177	3,568	1,832	171 円 11 銭

2. 平成 21 年 3 月期 個別業績予想の修正

(1) 第2四半期累計期間個別業績予想値の修正 (平成20年4月1日～平成20年9月30日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想 (A)	18,500	500	300	150	14円09銭
今回発表予想 (B)	16,800	320	110	40	3円76銭
増減額 (B-A)	△1,700	△180	△190	△110	——
増減率 (%)	△9.2	△36.0	△63.3	△73.3	——
(ご参考) 前期第2四半期実績 (平成20年3月期第2四半期)	16,884	1,643	1,550	770	71円61銭

(2) 通期個別業績予想値の修正 (平成20年4月1日～平成21年3月31日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	42,000	2,600	2,300	1,200	112円76銭
今回発表予想 (B)	42,000	980	590	310	29円13銭
増減額 (B-A)	0	△1,620	△1,710	△890	——
増減率 (%)	0	△62.3	△74.3	△74.2	——
(ご参考) 前期実績 (平成20年3月期)	39,636	2,901	3,250	1,742	162円70銭

3. 修正理由

(1) 第2四半期累計期間

第2四半期に売上計上予定であった一部の大口案件について、客先都合により第3四半期以降に売上計上時期がずれ込んだことにより、売上高及び営業利益が減少する見込みです。さらに、営業外損益において為替差損が当初予想よりも増加する見込みとなり、経常利益及び四半期純利益も減少する見込みです。

(2) 通期

平成21年3月期における世界経済は、米国サブプライム危機以降、成長が鈍化しております。FPD (Flat Panel Display) 関連は、受注は概ね堅調に推移しましたが、価格競争の激化や一部で設備投資延期等の兆候が見られます。半導体関連は、引き続き市場環境は厳しく、採算が悪化しているメーカー等が設備投資計画を凍結もしくは延期しております。また、薄型テレビをはじめとする最終製品需要も盛り上がり欠け、投資抑制の動きも見られます。

当社グループにおきましては、売上高は当初予想どおりとなる見込みながら、鋼材をはじめとした原材料の想定以上の高騰に加え、開発性の高い大型案件の受注が続いたことにより試作費用が増加したこと、生産高増加に伴う外部要員の急増による外注費の増加と生産管理における混乱等により製造費用が増加したことなどにより、当初の想定よりも大幅に営業利益を圧迫する見込みとなりました。また、為替差損が当初予想よりも増加する見込みとなり、経常利益及び四半期純利益も減少する見込みです。

今後の取り組みとして次年度に向けた受注確保及び生産管理と見積り精度向上によるコスト改善を図り、今期業績の改善に努めます。

尚、配当予想につきましては、当初計画のとおり1株につき年25円で、今回の業績予想の修正に伴う変更はありません。

(注) 本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以上